

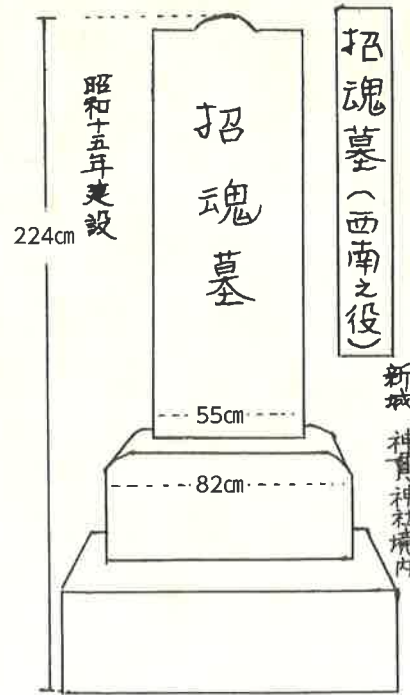
招魂墓 (新城神貫神社境内、マップ⑥)
 明治15(1872)年9月、戸長・中村思無邪氏により建立されました。大正13(1924)年、神



新城神貫神社境内招魂墓

戦死者 24名 生存者 85名 従軍者 計109名

貫神社境内に移転。昭和23(1948)年、日清・日露・第二次世界大戦の慰霊碑とともに現在の位置に移されました。



上田家との関わり (マップ⑦)

明治7(1874)年立春の頃、明治6年の政変に敗れた西郷隆盛が新城に狩りに来るようになります。そのときの狩宿は大都の上田親豊宅でした。上田親豊の妻マスの弟(兄とする資料もある)は市之助という人で、この人は戊辰戦争の際、西郷隆盛に従って出征した経歴もあります。西郷隆盛は明治6年の政変に敗れ、鹿児島に戻り、県下のあちこちで狩りをしていましたが、その際市之助は供を良くつとめたと言われています。



西郷南洲翁仮宿跡

このことを知った当時の戸長・安田為徳氏や前戸長・中村清徳氏は、上田氏と一緒に西郷隆盛を歓待したと言います。また、狩の御供役として、新城の狩の名人鹿屋駒之助氏、兎取りの名人中園休次郎氏、鉄砲うちの名人榎屋与助氏の3名が西郷隆盛に同行したと言われています。

明治10(1877)年2月4日、根占から鹿児島に帰る途中上田家に立寄り「当分は会えないので、元気で暮らしてくれ。」と言ひ、茶も飲まず去って行きました。これが西郷隆盛と上田家の今生の別れになりました。

上田家では、西郷隆盛の使用した寝具、家具類、親筆等を大事に保存していましたが、第2次世界大戦のとき、空襲を受け焼失してしまったとのこと。

西郷隆盛と新城の学校

西郷隆盛は、明治6(1873)年、郷校松尾小学校(後の新城小学校)と大都にあった私塾高野塾(明治8(1875)年松尾小学校に統合)を視察しました。松尾小学校での西郷隆盛の話に、生徒達はたいへん感動、奮起し

たとわれています。

新城私学校分校 (マップ⑧)

明治8(1875)年1月、私学校新城分校が開校しました。校長は戸長の安田為徳が務めました。本部は松尾小学校内に置かれ、松尾小学校の教師が私学校の教師を兼任しました。大浜に設けられた陸軍訓練所で行われた軍事訓練には特に比重が置かれていました。

西郷隆盛は新城へよく狩りに来ており、西郷隆盛を慕うものが多かったため、入学者も多かったと言われています。

明治10年西南戦争が始まると、新城村からは新城隊が組織され西郷軍に参加、松尾小学校の教師は新城隊の幹部となり、私学校は休校となりました。

伝えられている当時の様子

- 西郷隆盛は、新城での初めての狩りで、10頭の猪の集団と出会い、みごと10貫目位(約40kg)の猪を仕留めました。この成果に喜び、以降度々新城を訪れることになったと言われています。
- 西郷隆盛は鳥賊引きも楽しみました。西郷隆盛が小舟に乗ると、船が深く沈むので「おいどんが乗ると船も難儀をしもんど。」と大笑いしたと言われています。
- 西郷隆盛が新城に滞在しているときは庶民的な生活で、木綿の絆を愛用したと言います。新城では、鹿屋郷之原の緑茶、木場の田の米、浜どりの新鮮な魚介類で西郷隆盛をもてなしたといわれています。
- 西郷隆盛は味噌汁が好きで、鯛の火ぼかしの出し汁で手作りした味噌に青物を入れると美味しいと喜び、飯は米に甘藷を入れたものを喜んだと言われています。また、そばが好きで、火ぼかしの鯛の煮出し汁にごまや山椒の実、小みかんの皮を混ぜ、せんもとを刻み、ひね物として差し出すと大変喜び、「とてもおいしか、まいっペどま気張っ食おかい」と言って数杯食べたと言います。
- 上田親豊の二女、大津シモさん(当時10歳前後)の回想です。「逗留の際は「シモちゃん、シモちゃん」と可愛がっていただき、西郷翁の給仕をしたこともあり。あるとき、何が好きか聞かれたので三角菓子が好きだと答えると、買ってくださいました。近所の子どもにも優しくかったです。城山で戦死の報を聞いたときは、数日

ろくろく食も通らず泣いて供養しました。」
 諏訪の川畑長次郎という人がいました。病身でしたが、草鞋づくりが上手く、西郷隆盛は狩りの際、長次郎の草鞋を愛用し、「私は足が大きいから。」と言って2倍の代金を支払ったと言われています。長次郎さんは、「私が病身であることを憐れんでくださっているのだろう。」といつも感謝していたと言います。

西郷隆盛は鹿児島から来るときは船を使用したり、垂水から陸路で来たりしていましたが、帰るときはいつも船でした。その際は新城の大型漁船をきれいに洗って使用しました。船は四挺櫓(4本の櫓を使って操る船)で水夫は5人が普通でした。渡航時間は天候次第で5~8時間要しましたが、その間西郷隆盛はものも言わずじっと座っていて、鹿児島に着くと「おやっとなさあ。」と礼を言って上陸したと言います。

小城家と西郷さあの刀

西郷隆盛は麓の小城仙次郎の家にもよく逗留したと言われています。腰に小刀を一振差し、愛犬「ツン」を伴っていたと言います。

仙次郎の子・千太郎(当時6、7歳)が、西郷隆盛が来るたびにこの刀をねだったところ、根負けした西郷隆盛が小刀を千太郎に与えたと云います。この刀は「西郷さあの刀」と呼ばれ、小城家の守り刀として小城家の氏神である小屋敷大明神社(小城家屋敷内にあったが、神貫神社に合祀された。祭神は火神加具都知命)におさめられていたとのことですが、現在は消息不明となっています。

西郷メモ

このページには、西郷隆盛と新城地区の関わりについて書いてあります。あなたが新しく知ったことや、西郷隆盛と新城地区との関わりについて思ったこと、感じたことなどを自由に書いてみましょう。
